

台風・豪雨の発生シーズンが到来  
地震や風水害など

自然災害への準備を再確認しましょう



平成29年7月九州北部豪雨の土砂災害

9月に入り本格的に台風を迎えるシーズンになります。自分の命と大切な人を守るために、災害についての認識を深め、災害時の情報収集手段や地震、風水害などの自然災害への準備を再確認しましょう。  
詳しくは、**危機管理室(☎2130)**へ。

災害が発生したら  
まずは正しい情報を

災害発生時には、正しい情報に基づいて、落ち着いて行動することが大切です。  
市は、災害が発生した場合や発生する恐れがある場合に、市民の皆さんに避難情報などを防災行政無線でお知らせし

ます。  
また、携帯電話などにメールを配信する「**渋川ほっとマップ**」や、市公式ツイッター、市公式フェイスブック、市公式LINEなどでも関連情報を発信します。まだ登録していない人は、左の2次元コードからぜひ、登録してください。

災害時の  
情報収集方法



※それぞれの2次元コードから登録してください

防災行政無線が聞こえにくい人のために「緊急情報配信サービス」を始めました

携帯電話やスマートフォンを使用していない人で、緊急情報の入手が比較的困難な高齢者などに、自宅の電話やファクスに災害時緊急情報を配信しています。防災行政無線で放送される内容の中でも、特に緊急性の高いものを配信します。  
〈配信する情報〉  
▽避難情報(避難指示など)  
▽国民保護情報(弾道ミサイル情報、大規模テロ情報など)  
▽その他災害時の緊急情報  
〈対象〉  
▽電話サービス⇨高齢者、障害のある人など配慮者や防災無線が聞き取りにくい人  
▽ファクスサービス⇨聴覚に障害のある人や、電話での聞き取りが困難な人  
〈申込方法〉  
申請書(危機管理室または、市ホームページにあります)に必要事項を記入し、郵送、ファクスまたは直接**本危機管理室(〒377-18501・石原80・☎2130・☎246541)**へ。

行動する前に  
もう一度確認しましょう

新型コロナウイルスが収束していなくても危険な場所にいる人は避難することが原則です。  
〈知っておくべき5つのポイント〉  
①避難とは「難を「避」けること」です。安全な場所にいる人が避難場所に行く必要はありません。  
②避難先は小中学校・公民館だけではありません。自宅・親戚・

知人宅に避難することも考えてみましょう。  
③食料・飲料・毛布のほかにはマスク・消毒液・体温計を持参してください。  
④市が指定する避難場所、避難所が変更・増設されている場合があります。災害時には市ホームページなどで確認してください。

避難所の開設・混雑状況が  
確認できます

避難所の開設・混雑情報配信サービスにより、位置や混み具合をスマートフォンやパソコンなどで随時確認できます。混雑状況は「空いています」「やや混雑」「混雑」「満」の4段階で表示されます。



▲こちらからアクセスできます

「自らの命は自らが守る」の意識で適切な避難行動をとりましょう

市は、気象庁の防災気象情報をもとに判断し、想定される「洪水」や「土砂災害」などの災害の危険度により、地域を限定して避難情報を発令します。

緊急時に確認

- ▶自主的に避難する
- ▶レベル4までに必ず避難する
- ▶避難指示が出ていなくても、土砂災害の前兆現象が確認された場合は、直ちにその場から避難する
- ▶避難がかえって危険な場合、少しでも崖から離れた建物の高い階へ移動するなど、身の安全を確保する

※避難情報の解除も、警戒区域別に順次行います

警戒レベル	市が発令する避難情報(警戒レベル)	住民がとるべき行動	防災気象情報(警戒レベル相当情報)
1	-	災害への心構えを高める	早期注意情報(警報級の可能性)
2	-	ハザードマップなどにより、災害が想定されている区域や避難先、避難経路を確認する	大雨・洪水注意報
3	自主避難(高齢者など避難)	災害が想定されている区域で避難に時間を要する高齢者などや危険を感じた人は、自主的に避難する	大雨警報(土砂災害)警戒レベル3相当
4	避難指示	危険な場所から全員が避難する	土砂災害警戒情報警戒レベル4相当
<b>警戒レベル4までに必ず避難</b>			
5	緊急安全確保	何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況であり、命の危険が迫っているため、直ちに身の安全を確保する	大雨特別警報(土砂災害)警戒レベル5相当

※市区町村が発令する警戒レベル3または4(避難情報)で必ず避難しましょう  
※気象庁などから出る河川水位や雨の情報を参考に、自主的に早めの避難をしましょう

避難行動判定フロー

